安全・安心・住んで良かった・誇れるまち 八清

回覧

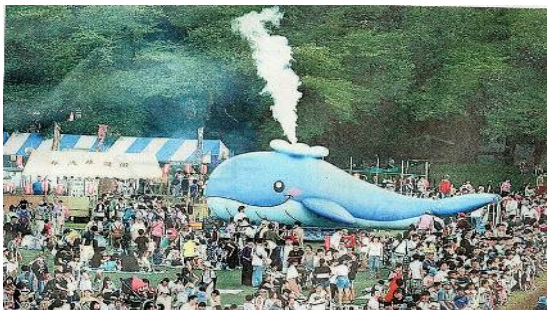
わがまちの自治会 会報
八清親和会 トピックス

会員の元気を 八清地域の元気に

令和4第 3号

発行責任者 八清親和会　　会　長　三田幾一　　編集　副会長　吉田祐治
発行 令和４年５月２４日

◆ 第50周年の記念となる、令和4年度の「市民クジラ祭り」は正式に中止となりました。



昭島市が、８月２７日～２８日で開催予定していました、「市民クジラ祭り」は、昨年から５０周年の記行事業等を含め準備を進めてきましたが残念ですが中止となりました。

新型コロナウイルス感染症は、依然、世界中で猛威を振るい　国内においても感染者が高止まりの状況にあり、感染予防対策を講じつつも、見通しが見えない厳しい状況にあります。関係者、各団体、市民が多く集まるため、開催に［初代クジラ祭り］のシンボルくじら］　あたっては、万が一のクラスター等の発生に備え様々な感染防止対策を講じても、関係者、各団体、市民の皆様の安全安心を確保することは困難であるとの結論から中止することになりました。

◆「令和4年度第1回（初夏）八清ロータリー花壇の花の植え替え」を6月11日（土）に実施します。

毎年実施しています「ロータリー前２ケ所のベンチのある憩いの場の花壇の花の植え替えを行います。
時間は AM９時～９時３０分、集合場所・八清ロータリー
詳細は、同時に回覧しています「お知らせ」を参照ください
第２回は晩秋の１１月を予定しています。

八清住宅地域や八清親和会を見つめ直すシリーズ
“わが街・わが自治会の今・昔”

◆第４回は“戦争で消えていった鉄道　五日市鉄道”、通称｛五鉄（ごてつ）｝

八清通りを南に行くとスパーマーケット「マルフジ」の先に信号機のある交差点に出ます。この交差点の東西の道路は、“五鉄通り”と言い、東側の道路は現在の八清親和会の５区７組にあたり２００m先で切れています。

当時は、真正面の建物の向うから線路が繋がっていました。（左の写真参照）
一方西側の道路は緩やかな下り勾配で、新青梅街道の昭島市役所南の「市役所前交差点」近く迄繋がっています。

では何故、この五日市鉄道が廃止になったのか。
当時の五日市鉄道は、現在のJR五日市線の前身にあたる鉄道で大正１４年（１９２５年）に日の出町大久野、岩井で採掘された石灰石輸送を主として旅客輸送をも目的とし、拝島―武蔵五日市―武蔵岩井間で開業していました。当時セメント工場があった川崎への輸送は、拝島からはすでに開業していた青梅電気鉄道（現JR青梅線）と国鉄中央線経由で輸送されていました。
遠回りで効率が悪いため、五日市鉄道の路線を立川へ延長し、同時に川崎を起点とした南武鉄道（現ＪＲ南武線）が立川まで延長したため、立川駅構内で南武鉄道と接続させたのです。この延長路線は昭和５年（１９３０年）に開通し、昭和１９年（１９４４年）１０月迄営業していました。そして、太平洋戦争が激しくなる、昭和１９年（１９４４年）南武鉄道は青梅電気鉄道とともに、国有化されました。当時拝島―立川間（現昭島市内）の路線は、右地図の赤線部分で、現在「五鉄通り」通りとして残っています。

昭島市内には８つの駅（停留場）がありましたが、八清住宅地域には駅がなく最寄りの駅は、現在の市立昭和公園南入口前にあった「武蔵福島」駅が近かったようです。
そして、太平洋戦争が激しくなると政府は国鉄や鉄道会社に対し不要、かつ不急の路線は休止したり単線にしたりするよう求め、レールなどの資材を輸送力増強を進める他の路線へ転用したほか、武器などの原料に使ったと言われています。
五日市鉄道の拝島―立川間も不要不急路線とされ、レール、枕木など他の重要線区に転用されたとのことです。不要不急路となったのは、ほぼ並行して青梅電気鉄道があったため、昭和１９年（１９４４年）１０月以降は休止となりました。戦後はこの休止区間は復活することなく、事実上廃止。線路跡はほぼ全区間が道路に転用され、今では「五鉄通り」として残り現在に至っています。

1944年頃の五日市鉄道・大神停留場（竹村義雄氏撮影、昭島市提供）

では、五日市鉄道の拝島―立川間が昭和１９年（１９４４年）１０月以降は休止となったため、八清住宅地域の住民は不便になったかと言うと、昭和１７年（１９４２年）８月に青梅電気鉄道の「東中神」駅が開業したため、むしろ便利になったと思われます。

旅客用にはガソリンカーが運転されていました。（写真左）

現在、拝島―立川間で残っているのは、西立川―立川間のＪＲ中央線の青梅線直通下りに使用されている、単線区間が五日市鉄道の名残です。

記 吉田

以上